

わが国の家計消費に習慣形成は成立しているか？ ; JPSC による検証

高崎経済大学 岩本光一郎

要旨

本稿では、1980年代後半以降の習慣形成に関する実証分析の概観と、先例のあまりないマイクロデータによるわが国家計を対象とした検証を行った。Dynan (2000)の拡張オイラー方程式とJPSC(消費生活に関するパネル調査)のパネルデータによる、わが国の家計に習慣形成が成立しているかという検証の結果は、Dynan (2000)と同じく習慣形成が成立しているという evidence は得られない、というものであった(そして Guariglia and Rossi (2002)と同じく、消費の耐久性と整合的な結果であった)。しかしこの分析結果を以て、「わが国の家計消費には、習慣形成が成立していない」と結論すべきではなく、分析結果を左右する可能性のある要因、①測定誤差②調査期間③異質性(heterogeneity)の影響をコントロールする方法を模索しつつ、今後も進めていく必要があるものと思われる。